

齋藤会長 新年のごあいさつ



令和3年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、日頃から本会の運営に特段のご理解とご支援を頂いており、心より感謝を申し上げます。

さて、昨年国内情勢を顧みますと、新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大が我々の生活や経済に甚大な影響を及ぼし、昨年3月には東京オリンピック・パラリンピックの開催延期、4月には全都道府県に対し緊急事態宣言が発令されるなど、過去に経験したことの無い事態に直面することとなりました。

景気については、一昨年の消費増税をきっかけに消費マインドが低下するなか、緊急事態宣言に伴う営業自粛、インバウンド需要の激減などが追い討ちをかけ、国内経済は大幅に悪化。その後、緊急事態宣言が全面解除された5月を底として、緩やかに回復基調が続いておりましたが、年末には第3波ともいえる感染再拡大が起きるなど、経済活動の回復ペースは再び鈍化しており、コロナ前の水準に戻るまでにはまだ相当の時間を要するとされています。県内中小企業においても、新型コロナの影響がほぼ全業種に拡大しており、多くの事業者が国や県等の支援策を活用しつつ、感染防止対策を取りながら事業の継続と雇用の維持に取り組んでいる状況と思われまます。

まさに混迷の1年となりましたが、中央会としましては、相談窓口の開設や国・県等に対する要望などを迅速に行いつつ、会員組合の皆様との連携により、事業者への円滑な支援策等の情報提供に努めて参りました。また、コロナ禍における事業者の新たな生活様式への対応や非対面型ビジネスモデルへ転換を支援する、「栃木県地域企業再起支援事業費補助金」の事務局業務を受託するなど、事業者支援にも力を入れてきたところです。

今後の見通しとしては、引き続き新型コロナウイルス感染拡大の動向が不安視されますが、一方で、ワクチンや治療薬の開発・実用化が進めば、東京オリンピック・パラリンピックの開催との相乗効果により、今年の経済が想定以上に急速に回復する可能性があると言われております。いずれにせよ、当面は粘り強く感染防止対策に努めることが求められますが、ようやく長いトンネルにかすかな光が見えてきたとも言えますので、是非とも前向きにとらえつつ、本来の経済活動が戻ってくることを願うものです。

本会といたしましては、地域経済の牽引役である中小企業・小規模事業者が、このコロナ禍という未曾有の難局を乗り越え、安定した事業活動が行えるようになることを第一に、引き続き全力で取り組んで参りたいと思います。また、事業承継や働き方改革への対応、災害対応力や事業継続力の強化、更にはアフターコロナを見据えた「DX」(デジタルトランスフォーメーション)や「SDGs」への取り組み等、直面する多くの課題に積極果敢にチャレンジして行けるよう、組合等の連携組織を核とした様々な支援を通じて、地域経済の発展に貢献して参る所存です。

今年は十二支で「辛丑年」(かのとうし)です。「辛」(かのと)は元々の意味は「新」から来ており、草木が枯れ新しく生まれ変わろうとする様を表すそうです。牛は古くから人間を助けてくれる大切な動物であり、「我慢、耐える」や「これから発展する前触れ」を表すとされています。そう考えますと、この「辛丑年」は非常に縁起のよい、明るい未来を示唆しているように思えます。

これまでの我慢と地道な取り組みが芽を出し、大きく花を咲かせることを期待しつつ、新しい年が皆様にとりまして、希望に満ちた輝かしい年となりますことを心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和3年 元旦

栃木県中小企業団体中央会

会長 齋藤 高藏